

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

事業所名	グルーホーム富塚・のぞみの里
(ユニット名)	オーリーブユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県新発田市富塚 1355
記入者名 (管理者)	江口 高広 近藤 隆史(管理者)
記入日	平成 21 年 8 月 22 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	独自の運営理念があり、「愛と希望」の精神の下、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。	理念を作って終わりではなく、定期的な協議を開き、理念の実現に向け努力する必要があると考える。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念はスタッフ一人一人に浸透しているが、ケア場面においての実現には至っていないのが現状である。	ケア場面での理念に基づいた教育法を考え実行する必要がある。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族の方、各関係者の方には広報誌に理念を掲載し発信している。	今後もあらゆる機会の中でホームを取り巻く全ての方々に対し浸透していただく努力を続けていきたい。
も			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣には一般民家がなく、関係者や近隣大学の方と交流させていただいている状況である。	地域にとけ込めるよう、こちらから様々な場面に出席が必要がある。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	大学の講師、ボランティア、近隣の美容室とは顔馴染みである。	近隣に民家はないため、大学と関係を強く持ち、近隣の企業の方と交流を持てるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現状ではまだ、外部との交流まで取り組めていない。		次年度の目標としてと入いれて行きたいと考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価及び、自己評価を実施する意味合いを理解している。もちあがった課題については解決できるものから随時解決していきたい。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進委員会は2ヶ月に一度のペースで開催され、ホームの運営状況、活動報告、利用者の状況を報告し、参加メンバーより助言を頂きながらサービスの向上に活かしている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	様々な問題解決・指導において随時連絡を連絡を取り合っている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	成年後見制度を利用している入居者様がいらっしまったので資料・口頭で制度の内容を伝達している。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	ケアの方針の中に、虐待にあたるか十分検討し指導等に当たっているが、ケア場面毎の指導であり、会議にて検討等は行えていない。		ミーティング等の実施を月1回のペースで開催し、内容を伝達していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、入居者様・ご家族様同席の下、運営規定・契約書・重要事項説明書を使用させて頂き説明をしている。随時上記の事柄について質問等が合った場合には納得いくまで時間を要した上で説明を指せて頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様からの貴重なご意見は、職員全員で共有し、即時検討させていただき早急な解決を心掛けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>苦情処理の概要を玄関に貼りだし、投書箱も設置している。受付窓口は(連絡先)については24時間体制で対応している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱等の設置はしているが、特に苦情等はみられていない。しかし、面会時のご家族の意見を通じてで、要望には職員全員で早急に解決出来るように対処させていただいている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>現状はトップダウンである。</p>	<p>各スタッフのボトムアップを次年度の目標として確立して行きたいと考える。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事等の勤務調整は十分配慮できている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在職員が定着していない為、ユニット定着は出来ていない。</p>	<p>スタッフが定着できるよう努力し、スタッフのスキルアップ研修等を行い、個々の能力をあげる努力をしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員能力・経験には差があり、職員の力量によって勤務調整し、ケアの場面毎でアドバイスしている。研修は参加しているが、内容が職員に伝わっていき今後伝達講習を開催したいと考える。		ケアに関する内部研修会や、DVDを用いての学習を実施すすめていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流等は行っていない。		次年度の計画目標として、ネットワーク作りを計画している。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスはケアの質の低下を招くと考え重要事項としてとらえている。適正な労働管理・労働条件の整備に努めている。また定期的に職員と面接を行い、働きやすい職場に近づけるよう努力をしている。		今後も面接を実施しつくりあげていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の力量に応じて、役割分担を明確にしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接を自宅にて行い、談話を通じてニーズの把握、悩み等を傾聴している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前に訪問・面接時に傾聴させて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様担当ケアマネージャー等から直近情報を把握している。また、相談内容に応じてゆっくりと、時間を掛けさせていただいて説明させていただいている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前にホーム見学やユニットで入居者と一緒に過ごして頂き、安心して入居して頂けるように配慮している。また、環境に慣れて頂く為に、ご家族の方より意見を頂き工夫させて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に同じ目線で入居者様に寄り添い、付き添うことで様々な経験を日々勉強させて頂き、信頼関係を構築させて頂いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やプラン説明時お聴ききして実行できるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の協力を得て、出来るだけ面会や外出など良い関が多くなるように支援させて頂いている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前はなるべくホームを訪問して頂きご自身の目で御確認して頂いている。また入所直後は人員の可能な限り寄り添い、付添い不安の解消に努め、バイタル、排泄状況、食事量、水分量には細心の注意を払いケアにあたらせて頂いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の人間関係を把握し常に情報を共有している。また、様々な場面に職員が間に入り潤滑油の役目を果たしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後においても、いつでも来ていただくようにお話をさせて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を尊重し、入居者様本位のケアを常に尊重させて頂いている。起床時間・就寝時間、散歩生活全般において意向に応じて支援させて頂いている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の訪問・面接の際に情報を収集している。ご家族の方にも面会時等協力して頂いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で常に情報を共有しているも、職員の能力によって情報量に差異が生じてしまう事がある為、勤務者全員で入居者様の情報収集を行い日々のケアにいかしている。		
2. 本人がより良く暮らし続ける為の介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	時間の調整がつかず、カンファレンスは行えていない。しかし、入居者様の情報は事前に収集し、当日の勤務者でケアの方向性で決定させて頂いている。		勤務担当者との調整、カンファレンスを開催していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況、ADLに変化が起きた場合、必要なプランを記載させて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を項目別に記録し、プランの作成に役立て実践している。また、気づきについては記録・申し送りをとうし共有を図っている。		記録内容を充実させる必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・緊急時、その他対応出来る範囲内でニーズに対応できるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現状できていない。		来年度の目標として地域活動を計画している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向において、事業所として力量不足と思われる点に関しては、協議、協力を求めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会を通じ、協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に、ご家族からの要望を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、協力体制は確保されていない、		今後体制を確保する必要があると考える。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療的ケアが不足していると考えているが実施できていない。		地域医療機関と積極的に交流していきたいと考える。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、又は緊急入院した場合、情報を得るように職員が同行している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りについては高いスキルが求められるケアであり、事業所の力を超えていると考えるため実施はしていないが、今後取り組んで行かなければならない課題であると考えている。		今後、取り組まなければならない課題の一つとしてとらえている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同上		同上
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時においては、ご本人の状態や生活状況、ご家族のご意見、各医療機関、関係者の方と検討し、ダメージを防ぐように努めている。当ホームに入居された場合には、スタッフが全力で付添い不安解消に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>認知症である前に一人の大切な人として尊厳を大切にしたケアを常に心掛けている。それらに基づいた言葉使いや、ケアをさせて頂いている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>忙しさを全面に押し出すのではなくゆったりとした雰囲気職員は職員サイドから出すように指導している。業務を優先させるのではなく、コミュニケーションを大切にし思い・希望を表せるよう努めさせて頂いている。また、表現法においては入居者のかたに合わせた表現方法をとらせて頂いている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>可能な限り個別の役割、希望にこ沿うケアを心掛けている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的には馴染みの理髪店・理容店をしようしていただくように配慮しているも、様々な理由で行けない方に関しては、近隣にある送迎付きの美容室を紹介している。身だしなみについて個々の能力に合わせ助言させて頂いたり、</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>希望があれば調理・盛りつけを手伝って頂いているが、基本的にゆったり過ごして頂くためお誘いはしない。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>防火管理上全ユニット禁煙となっている。飲酒に関しては医療上の理由で禁止されている方以外は基本的に自由となっている。おやつに関しては、様々な物を取りそろえ季節の果物、入居者様の好みを考えた物を提供している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを日々把握し、能力や習慣に合わせた誘導法を実践している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望や時間帯などを確認しながら、その方の入りたい気持ちを大切にしながら入浴して頂けるよう職員も配慮させて頂いている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活パターンを尊重して支援し、眠れない方は生活のリズムを取り戻して頂くように支援させて頂いている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の生活の中で役割が自然に保たれていると感じる。積極的に役割をこなして下さる様子が見える。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭を所持している入居者様いるが、使う機会は皆無である。</p>		<p>今後、買い物・外食等使う機会を検討する必要がある。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や健康状態を心理状態を考慮したうえでホーム周辺を散歩したり中庭の畑へいったりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>現状社用車がなく、外出時、受診以外はご家族に対応して頂いている状況である。</p>		<p>社用車を購入した後に、検討する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望される際には、いつでも事務所の電話を解放している。手紙に関しては年賀状・暑中見舞い等の郵便物も対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様の家族、知人、友人等、本人の馴染みの方々が訪問された際には、基本的には入居者様の居室にて気兼ねなく過ごして頂き職員もお茶を出す等の配慮を指せて頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が認識しているが、身体拘束のガイドラインを正しく理解してはいない。ケア場面毎において何が身体拘束にあたるかを常に検討・実践している。		資料配付・内部研修会を開催したい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害を各職員は理解している。入居者様の行動・傾向・健康状態を考慮した上で制止したり、お供させて頂く事はあるが、基本的には最小限のお声掛けとさせて頂いている。事故防止・セキュリティーの関係で玄関にはチャイム機能、行方不明対策としてGPSを契約している方もいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様所在、様子はプライバシーに配慮しながら把握している。夜間は入居者様の状態に応じて巡回時間を変えているが概ね1時間半毎に巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感とリスク軽減を考えた環境整備を心がけ、個々の状態に応じた注意物品を見定めて、見守りや確認を行い危険防止に努めている。また、必要であればご家族の方とも相談し検討している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	災害対策マニュアル、事故対策マニュアルや、各職員へ周知徹底はされていない状況である。ひやり・はっと報告書、事故報告書があり、分析・対応している。		資料配付・内部研修会を開催したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル配備しているが、定期的な訓練は実施していない状況である。		今後、応急処置法や救急法について講習会を開催したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルは配備しているが、消防訓練は実施できていない。		消防訓練の早期実施。必要物品の手配、地域の方との結びつきを深めていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居される際に生活上のリスクについて説明し概ねご理解ご理解頂いている。必要時には随時説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	10:00と16:00にバイタルチェック、排便状況を確認している。状態変化については、常に情報交換しており、入浴時には全身状態を確認するなど、日々の業務においても常に観察し早期発見を心がけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬剤の説明書を入居者様個々のファイルに綴り、記録、申し送りで全スタッフが情報を共有している。服薬時には必ずスタッフが付添い、誤薬がないよう、今日の日付、服薬時間を復唱してから手渡しにて服薬を確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い記録している。個々の状態に合わせ食事形態、水分摂取、運動支援を行っている。また医師の指示及び服薬対応もできている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、義歯の手入れに関しては、その方にあった支援方法で対応させて頂いている。義歯は夜間外していただいて専用消毒させて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取カロリー、栄養バランスは献立表に記載されている水分補給に関しては、常に嗜好、季節感を考慮した物を取りそろえ自由に飲んで頂ける環境作りに配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ユニット入り口に張り紙をし注意喚起を促し、職員・面会者による持ち込みの予防に力をいれている。ユニット入室時は必ず手洗いうがい・手指消毒後の入室をお願いすると共に、地域の感染症情報にも気を配っている。		新型インフルエンザ対策もあり、感染症対策をホームとして年間を通して洗いうがいに力を入れていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具は使用毎に洗浄している。食材はも毎日仕入れをし、新鮮で安全な食材を使用し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、中庭、駐車場には季節の草花を飾り、施設という威圧感の外観、塗装を含め無いと感じている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはソファー・テーブル・座布団など馴染みの仲間同士穏やかに、ゆったりと休める空間作りを心掛けている。また、空調、テレビの音量、カーテンによる光りの調節等、より良い環境作りをしている。トイレは常に清潔に保ち、一日一度清掃・消毒を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間にソファー・テーブル・畳があり、個々の心理状態に対応できる環境がある。また、それぞれ入居者様が、ゆったり過ごして頂く環境作りを常にスタッフが検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前面接において、入居の際に必要な物としてご家族の方に説明しパンフレットの別紙においても必要物品として記載している。また入居後もご家族の方に必要であれば、随時連絡させて頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においに関しては消臭スプレーで対応している。温度調節は常に入居者様の立場にたった温度調節を心がけ常に対応している。換気扇は全居室に完備し常時使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、必要箇所には手すりもある。また当ホームは「新潟県福祉の町づくり条例」適合している。		環境面だけでは無く、職員の介護技術向上も含め、自立支援にむけ、より一層努力する必要がある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の戸惑いや失敗、出来ないことの原因を見つけ出し、こうすれば出来た！等、職員はそういった視点で日々業務に当たっている。		今後も職員の関わり方や工夫で入居者様の状態や状況が変わってしまう事や、工夫や視点を変える事の大切さを職員同士確認し合っていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭・玄関・駐車場には花があり、中庭には季節ごとに収穫できる野菜畑がある。畑の成長の様子をテラスから見学している。今後散歩コースも建設する予定である。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設2年目のホームです。キリスト教の教えである「愛と希望」の精神を基盤とした運営・ケアを目指し、また敬和学園大学と提携し、スタッフ一丸となり「チームのぞみの里」として運営・そしてケアに従事させて頂いています。広い中庭に季節の花を植え、日々成長する花の様子を入居者の皆様と、お茶を飲みながら喜んでいたり、畑を作り季節の野菜を植え入居者の皆様・関係者の皆様・幼稚園の子供たちと成長・収穫の喜びを共感したりと、日々皆様の笑顔が絶えないホームです。のぞみの里では、認知症である前にその方を一人の大切な人として捉え、人生の先輩の方々と共に日々成長させて頂く。という考えに基づいたケアを実施しています。1年目に山積する課題をチームとして解決し入居者様の生活支援に繋げる為、皆様の貴重なご意見を真摯に受け止め地域に根ざしたホームを目指して日々努力して行きたいと思っております。